

# 平成 24 年度第 1 回恵那市市民評価委員会

## 議事録（要約版）

日時：平成 24 年 6 月 13 日（水）

午前 9 時 30 分から

場所：恵那文化センター展示会議室

- 
- 1 委員長あいさつ
  - 2 市長あいさつ
  - 3 会議の公開・会議録の公表について（確認）

〔異議なし〕

#### 4 議事

- (1) 平成 23 年度市民評価委員会提言内容への対応状況等について
- (2) 本年度の市民評価委員会について
- (3) 評価事業の選定について

#### 5 その他 次回開催予定日について

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦、大橋由美、柴英子、田口譲、柘植麻美、平野未帆、牧野香、宮地政臣、三輪哲司、山田基

【事務局】企画部長 小嶋初夫、企画課長 千藤秀明 企画課係長 福平栄久、企画課主査 交告高裕

欠席者

【オブザーバー】竹内泰夫

---

## 1 委員長あいさつ

■委員長 アドバイザーの竹内さんが体調を壊され今日は出席されていないが、昨年度、竹内アドバイザーから、今後の行政評価、市民委員会の方向付けについて提案があった。それを最初に確認いただき議事に進みたい。10月下旬の提言に向け、今回から、行政からも評価事業について提案がある。さらに、皆さんから6つの主要施策の中から5つ、昨年度は12だったが、幅をもって、内容を絞り込んで評価に当たってほしい。暑いときを含め数回委員会がある。ぜひ委員会の意味を理解して出席してほしい。

## 2 市長あいさつ

■市長 約600ある事務事業の中から12事業の評価をしていただいた。提言を受けて、今年度の予算に反映できるものは行った。内部の評価も行っているが、はなかなか改革改善が進んでいかないことも多い。市民の目線でメスを入れていただき、改革改善につなげていきたい。この委員会が実効あるものにしていただきたい。

## 3 会議の公開・会議録の公表について（確認）

〔異議なし〕

## 4 議事

### (1) 平成23年度市民評価委員会提言内容への対応状況等について

■委員長 議事(1)から順次進める。まず説明を受け、その内容について委員から質問もある。議事録の関係もあるのでマイクを使ってほしい。

議事(1)について事務局から説明を求める。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員長 以下は昨年評価いただいた12項目について、担当課が出席しているので、その後どういう対応がされているか説明を受け、委員からさらに質問があれば、それを受けながら進める。

子育て放課後児童対策事業について、担当課から順次説明してもらおう。

〔事務局から資料に基づき説明〕

- 委員長 資料は事前に目を通して思う。委員から質問はあるか。
- 委員 24年度に長島小学校の敷地内にプレハブを建てて対応する計画で予算化したとある。調整が難航しているということだが、24年度にプレハブを建て始めるのは難しいということか。
- 事務局 今年度中の事業なので何とかしたいと思っている。プレハブのリースで、5年間のリース契約を結ぶ。今年度中にいずれかの場所でスタートしたい。
- 委員 長島小学校の敷地内とは限らないのか。
- 事務局 そこが適地だとは思っているが、皆さんのご協力ご理解がないと進められない。別のところに適地があればと、今調整をしている。
- 委員 いつもこういう答弁になる。少なくとも、長島の学童保育所については、今日何が起きても仕方がない状況だ。一日も早く移転をした方が良いと思う。ようやく今年度予算の中でスタートするという話ではなく、あの施設を一度閉じることも考えないと、何かあったとき大きな問題になる。緊急を要するという覚悟ができないのか。
- 事務局 おっしゃる通りだ。老朽化し、手狭だし危険だ。しかし、現在の利用者もあり、閉じることは困難であるし、移転先の事情もあるので調整しながらしっかりやりたい。
- 委員長 ほかにないか。  
 納得のいかないこともあると思うが。特に今回、当地域から夏休みだけ民家を借りボランティアを中心に高学年の学童保育をするという提案があり、まちづくり市民協会の補助事業に採択されてこういう形になった。それは、この長島学童保育がこういう状況なのでということと、子どもが多くなって、緊急避難的にそういう措置になる。そこも2面が道路に面して極めて危険だ。委員が言われるように、現在は手狭な階段で、給食を作る場所とトイレが隣接しているという衛生的な問題で緊急的に改善してほしいと提言したのだが、スピード感が足りないと思う。24年度本格的に移動する場所がなければ、今のところを使用するのではなく、暫定的にでも、もっと安全な場所でやるべきだと思うがどうか。
- 事務局 おっしゃる通りだが、その代わる場所がないので苦労している。何とかプレハブで対応したい。一生懸命なるべく早くやる。
- 委員長 この委員会でそのことがあった後、担当課としては、暫定的な場所について努力された経過は聞いている。それはバローの前の「市民の家」。平屋で前に公園がある。今の、昔商売されていたところより、まだ安全だ。市民の家は大井町自治連合会が委託を受けていたが今は違う。そういう場所を暫定的に考えたらどうか。そういう手段を取るべきだと私は思う。それができない理由はあるか。
- 事務局 検討したが、利用者がかなり多い。そういう方たちに出ていってもらわないといけないということがある。その調整がつかなかった。
- 委員長 緊急対応で努力されたことは承知している。暫定的にも活用する場所が今ない

ということだ。いずれにしても早く対応してほしい。

■委員 早めというより、事が起きたら市の責任は大きい。そのことを、今預けている保護者に確認しながらやらないと。あの階段やあの調理室で事故が起きない方が不思議だ。この危険過ぎる状況を少しの間でも緊急的に考える必要がある。もし事故があったときに市役所の責任になる。ここに説明があったようなことを言ってみても皆さんに理解は得られない。保護者にもそういう状況だがいいかということの確認を取る必要があると思う。

■事務局 おっしゃる通りだ。保護者会には今の状況を説明している。24年度中にはやるけどもうしばらく待っていただくようお願いして理解してもらっている。

■委員長 ほかに。この点については、必要上の問題として早急に対応いただきたい。  
次に特定健診・特定保健指導事業について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はあるか。

■委員 健康の問題は大事なことだ。市民の自覚が一番大事だが、それをどうやってそういう気にさせるかが担当課の仕事だ。書いてある通りでいいが、通り一遍になりやすい。そこを具体的に、たとえば健康に気をつけている方から、周りの人へ伝わるような方法を考えてみたらどうか。

■事務局 自治会や協議会では、保健指導の保健師も一緒に、今まで健診を行った人の後の保健指導の経過も説明してもらっている。そういうことで皆さんに周知してもらっている。

■委員長 次に人工透析施設運営事業について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はあるか。

■委員 現地視察をしたとき、岩村診療所の2階ということで、恵那市透析センターという看板がないという話が出た。診療所を利用している人も、透析センターがあるかどうか分からない。恵那市民に分かるように看板をとということだったが、今看板は出ているか。

■事務局 入り口は診療所ということでやっているし、インターネットやいろいろな形で周知をしている。始めたのが3年前ということで、看板の関係も考えているが、患者の紹介も2名のうち1名が名古屋からということもあって、PR不足の点もあるが、今後努力したい。

■委員 看板は取り付けるということか。

- 事務局 玄関ということか。
- 委員 市民が通ったときここに透析センターがあると分かるようにということだ。ネットで努力していることは分かったが、看板は設置する予定はないのか。
- 事務局 今年度は予算がない。今後いろいろな中で検討したい。
- 委員長 住宅用太陽光発電システム設置補助事業について、担当課から。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

- 委員長 質問はあるか。
- 委員 原発の問題がある中で、太陽光の方向で節電につなげるようにという機運が全国的にある。恵那市の現在の設置の割合は他市町村と比べてどうか。
- 事務局 他市町村との比較はない。中電の管内は中津川市の阿木と蛭川が入っているの  
で恵那市内だけの数字は事務が大変で出てこない。昨年の7月末しか情報がないが、650  
軒ぐらいということだ。これが他市と比べて多いかは分からない。東濃の他市はキロワッ  
ト当たり3万円で、予算うちの半分のところから2千万円ぐらいのところがある。本市  
としてはここの分野は強力に推進しているという認識だ。
- 委員 恵那は他市と比べて補助が大きいと聞いている。もっと恵那市民に設備を督励す  
る方向で考えているのか。
- 事務局 金額でキロワット当たり4万円という補助にしている。そこを理解してほしい。  
業者からも市民の不満は届いていない。3年間定期報告書に意見を書いてもらっている。  
去年の分が今届き始めたところなので細かく分からないが、金額を変えろということは載  
っていない。
- 委員長 昨年、環境課主催の環境対策協議会で武豊メガソーラーを視察に行った。浜岡  
原子力発電所が止まっていて、火力発電とメガソーラー発電をやっている。本市の太陽光  
は民家で、学校施設でも進めているとは思いますが、本市の地形でメガソーラーのように一定  
規模以上の発電をする計画はあるか。
- 事務局 行政が設置するものは考えていない。まちづくりの関係でもっと小規模な500  
キロワットや200キロワットのを設置したいという地域の意向は聞いている。ただ、  
それに対する制度は考えていない。視察に行くことなどへの支援はしたい。立地の選定に  
ついて、どのぐらい出力が出るかなどは、専門のコンサルタント業者に聞いて地元を支  
援したい。商工観光課にも、企業の問い合わせが来ている。平地がどこにあるかなど。1  
メガワット作るには2ha弱の面積がいる。山がちなところなので、そのような平地はなか  
なかない。
- 委員長 エコセンター恵那じん芥処理施設維持管理経費について、お願いします。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はあるか。

私から質問する。助燃材のさらなる活用。溶鋳炉などに活用できないか研究中だと。私もこのことにかかわってきて、助燃材として使いたいというあるメーカーがあった。メーカーによるとRDF炭化物の中の塩素部分を取り除かれないと、一番の心臓部分に悪いものをぶつけることになるので助燃材にならない、というのが大勢で、結果としては炭化物の助燃材の溶鋳炉関係については、大量に必要なが使えない。その塩素などの不純物を取り除き、純粋な助燃材としての用途を考えていくということなのか。

■事務局 脱塩について、脱水機という機械がありその能力アップ、脱塩するためのろ布の改造などを図り、助燃材として有効に使える塩分濃度以下に下げる努力をしている。引き取り先が成分分析表がほしいというので提出している。それで塩分濃度を見てもらって引き取ってもらっている。引き取ってもらっているところは3、4社ある。一番大手のガクナンというところは、継続的に引き取ってくれることになっている。

■委員 この前の説明では、RDFはうまくいって1トン当たり1,000円ぐらいの販売額で運搬費が800円とか1,000円。採算が考えられない。助燃材で3倍、5倍売れるとなればいいが、そういうところに費用をかけるより、耐用年数が来ているのだから、そういう方向を考えるべき。遠からず、この1、2年で耐用年数が来ると思うので、新しく、少しでも効率よく安くできる方法を考えたほうがいい。RDFにこだわる必要はないのではないか。

■事務局 RDFの販路は、震災以降用途が増えている。脱原発の影響で、問い合わせが企業から3件ある。用途としては活用がある程度見込まれる。今言われた逆有償ということは起こり得る。それも踏まえて、検討委員会で新しい施設をどうするか、キルン、ストーカ、溶融などがあるので、今後20年、30年というスパンで考え、販路が開拓できれば、RDFも一つの検討材料だと思う。

引き取り価格は、ごみ質が重要になる。不純物が多いと安い。ある引き取り先では、RDFで1トン当たり2,500円、3,000円で引き取ることもある。それも市民に出すとき詳細にお願いしないとイケない。

■委員 3,500円で引き取り手があるということになると、現在RDFの関係では2億近い管理費が要ると聞いているので、それで採算が取れるようになるということか。

■事務局 RDF炭化物を作る場合、既存の施設、今年度も予算が1億8千万増えている。これについては、施設稼働から10年ということで、大きな機械が交換時期に来ているので上っている。RDFのみを作る施設は炭化がかからないのでコストの削減が図れる。

■委員長 RDFにしてから炭化するという工程があり費用がかかる。今所長が言われているのは、東日本大震災を含め反原発の立場ではRDFを活用しながら火力発電をする。三重県では、市町村ではRDFを作り、県は火力発電施設を作って、そこへ持ち込む。岐阜県はそこまで積極性がないので自己処理しているのが現状だ。所長が言われるのは、炭化物ではなくRDFのまま需要があればコストがかからないので、それも検討課題だということだ。

■委員 ごみ減量化の取り組みについて。主婦として。エコセンターを見学した。主婦ができる協力は生ごみを減らすことで、ぼかしや、ダンボールコンポスト。まちなかでも家庭で簡単にできる。ぼかしの講習を受けると容器も半額補助ということを知った。家庭の生ごみは毎日のことだ。重なればたくさんになる。各地域でなるべく講習をたくさん行って協力できる人を増やすことが大事だ。6月、7月も講習がある。広めてほしい。私もぼかしで野菜を作っているがよくできる。

■事務局 有り難い意見だ。環境課とタイアップして、コンポストを広げてもらおうと、費用が少なく済む。ごみ量は22年度12,076トン、23年度12,270トン。200トンほど増えている。ごみ減量化を広報などでお願いしているが、そういう意識でやってもらいたい。

■委員長 未登記市道解消推進事業について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はないか。地籍調査を進めながら連携を深めながら明確に登記していくことのほか、地籍調査事業そのものも、国、県、市の持ち寄り財源でやる。最近県の財政が厳しく地籍調査事業が鈍化している。市が行う開発事業でも、地籍の中に未登記のものがあることが判明する。個人の財産と行政の関係があるので、難しい課題だが、23年度の実績で39筆の登記ができていますが、根気のいる仕事なので担当課も努力してほしい。

地方バス路線の確保事業について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はあるか。

■委員 明知線活性化委員会に出席した。利用者のニーズに合わせた事業を展開せよということだった。そこで質問してお叱りを受けた。串原の方が、愛知県境の小渡という地域の病院へ通う人が3人あるのでそこへバスを出してくれと。あるいはその先にあるスーパーへ行くのでバスを出してほしいという要望があるということが活性化委員会に出てきた。

他県へ向かって、しかも病院へ行くのが3人、スーパーへ行くのは10人ぐらい。毎日かどうかは聞かなかったが、毎日病院には行かないと思う。スーパーへ行く人に愛知県へ向けてバスを出すということを市に要求されて、そこまで市は応える必要があるのか、ということ質問したら、アドバイザーの方が市の職員に怒っていた姿があった。私の言ったことは間違っていたのかと思った。さらに続きがある。瑞浪の知人が、私の発言を、やめさせるようにと職員が言っていたと、私に耳打ちした。私は間違っていたのかと、今も迷っている。皆さんの思いと違うなら、こういうところでは慎重に発言しないといけないと思った。いかがか。

■事務局 会議でそういう場面があったのは申し訳なかった。私の考えとしては、そういう会では率直に意見をいただき、それを受けてより良いものにしていくのが筋だ。不愉快な思いをさせて申し訳ない。今後そういうことのないようにしたい。

■委員 それで納得したい。では、バスを出すことに対して結論がどうなったのか私は知らないが。同じように、飯地や中野方の人が、八百津に病院やスーパーがあるのでバスを出してくれと言われたとき、対応できるか。市民として言えばなんでもその要求に応えるということではないだろう。愛知県に出かける病人のためにやるのか。

■事務局 串原、上矢作は、愛知県側のバス路線の乗り入れという方法で対応したと思うが、飯地などについても含め、要望をすぐ受けるかどうかは判断が難しいが、それも含めて、部会で検討したい。

■委員長 この問題は、公共交通としてのバスを効率よく使うという事柄と、病院、買い物の人数の対応については、地域で仲間をどうフォローするかというまちづくりのボランティアの部分と、公共交通をどう確立するかを区別して進めなければいけない。私も地域協議会13地域の連絡会議で、交通と買い物について、地域の中で、まちづくり活動でボランティアが対応、最近三郷の野井地区がそういう対応をしている。市民の要望は、大勢だろうが小勢だろうが対応するというのは行政のスタンスだが、公共交通として維持するにはどういう分野をやり、それ以外を住民がどうやるのか。地域的な課題の中に、ボランティアでやって交通事故が起こったとき責任をどうするのかなどもある。大井町には3つのタクシー会社がある、昼間暇だ、というところで話をしたい。予約制。問題なのは、飯地でも串原でも、営業社が遠隔地にあり活用しにくい。そうするとボランティアになる。大井長島など中心地域では赤字路線を確保するより予約制のタクシーを活用すればいい。2社ぐらいに話をしているが、3社そろわないと不公平になるので頓挫している。ファミリータクシーには可児市も取り組んでいる。それも含め恵那市はどう取り組んでいくのか。少数の活用はボランティアをどうするのか。ボランティアの補償問題もきちんとしないといけない。公共交通と少数の手法は、行政だけでなく地域でも考え連携しないとけない。

■事務局 今後の計画づくりを行う中で参考にさせていただく。

■委員長 恵那ブランド育成事業について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問、意見はないか。

都市農村交流事業について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はないか。

■委員 茅の宿とみだのランチにも行った。すごく努力している。味噌味の茅サブレなど、うまく茅の宿を取り込んでいる。おばあちゃん市・山岡とは違った良さを出している。担当課の熱い思いが皆さんとあいまっている。まちづくりの元気発信事業で厨房を新しくしている。不動滝もまめくらと配食サービスをする。地域の人助け合いをうまく促している。すごいと思う。感心している。

■委員長 農作物鳥獣被害対策事業について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はないか。委員はいかがか。

■委員 共同でないと補助がしてもらえない。でも出てくるのは1軒だけの山際のところ。それで個人的に費用を出すことになる。個人でも少しぐらい補助があってもいいと思う。広いところで共同のところはいいが、山際に1軒だけのところがある。

■事務局 言われることはよく分かるが、市では集落、地区単位ということでお願いしている。1軒のところだと、張ったその家がいいが隣に被害が集中する。1人の場合は東濃農業共済で別の助成制度があるので紹介している。

■委員 1人でやってももらえないということも今聞いた。今年度予算を見ると、去年より537万減っている。最近の新聞やテレビでは、このごろ被害が多くなっているということだ。なぜ減っているのか。

■事務局 自然林再生事業、モデル林の費用が537万円減額になっている。昨年は針葉樹を伐るモデル林を作った。今年度は木を残して強度な間伐をするモデル林を作るため面積を減らしており、その分が減っている。防除や捕獲の費用が減っているわけではない。

■委員 その減った分を今言われた方へ使えないのかと思った。

■委員 鳥獣被害は私も経験している。人間がいればイノシシは逃げていくが、このごろはイノシシも上手にやってくる。それでも、農地が荒れていくとイノシシも増える。山の木が人工林になってえさがなくなっても増える。被害を受ける方も自分で何かしないといけないと感じる。農地の場合は、鳥獣対策をやると同時に農地も山も自分たちで何とか害のないようにやろうという気持ちも市民の中に持たないといけないと思う。行政で担当課がやっているが全部ほかの課と関連しながらやるとうまくいくと痛感している。それも今後検討してやってほしい。

■委員長 もう一つ私から聞きたい。県から水源環境税が課税されている。県は各自治体からの応募方式を採用している。里山をマツタケが生えるような里山にしたいという事業を応募したところがある。鳥獣被害は、人里に出てこないような、山の中で生活できる山にすることが、根本的な解決方法だ。いくら電気柵で防御しても、彼らはえさのあるところに来る。そういう施策のための山造りをする必要がある。市の財政が弱いなら県の水源環境税の事業を農林課で模索して、鳥獣被害の多い地域に、対策事業をどうするか検討してほしい。

■委員 自然林再生事業は、事業名は何か。

■事務局 上矢作自然林再生事業と市営造林保育事業で行った。上矢作地区内で1カ所、岩村地区内で1カ所やっている。まだモデル林で岐阜県の森林研究所にも相談しているが、広葉樹の研究はしていないということだ。針葉樹から広葉樹に樹種転換をしたいということで、岩村と上矢作で今のところやったということで、いずれうまくいけば全市に広げたい。

■委員長 公民館の管理運営について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 質問はないか。

■委員 山岡はすばらしいところになった。今まで改善センターの一部が公民館だったが、今度はコミセンになっていいところになった。図書館も、子どもたちが楽しみながらゆったり本が読めるスペースになった。有り難い。劇団じいばあ劇の練習も隣の広い部屋を安い費用で使わせてもらっている。

■委員 設備に大きなお金をかけていい方向に向かっていると思う。先日市長が提言されて始めた三学の会、あれは岩村のものであるという意識が市民に多いと思う。佐藤一斎は岩村の話、という感覚がある。もったいない。公民館の運営の中で、市長の思い、一生懸命にやろうとしておられる市長の思いを市民に知らせて、三学の会の基本を市民がもっといろいろかかわっていくべきだ。そのために運営の部分を考えてやってほしい。

■事務局 市民三学運動を各地域で進める地域委員会がある。そこはコミュニティセンターと振興事務局が両方で事務局を担って市民三学地域塾を進めていく。生涯学習講演会も開催して進めている。まだ、意識が浸透していないというご指摘もあるので、一層啓発に努める。

■委員長 三学地域委員会は組織の作り方について一工夫してほしい。結果的に、いろいろな肩書きを持ちすぎている。中身が大事でもその人にとってみれば自治連、地域協議会、地域の役員、その上三学委員会の委員ということになる。能力を百パーセント出せない。ついでの仕事になるというのが大方の組織の実態になる。そのことにかかりきれず、そういう委員の選出をするべきだ。最近では行政の辞令も併任発令が多い。主が何なのか分からない。それと同じような感覚が委員にあって主体的に取り組めない。社会教育課としては専任ということを考えてほしい。

■委員 おっしゃる通りだ。でも市川会長のような人はいろいろなところでいろいろ頼まれるのは当然で、市川さんには10でも20でもやってほしい。いずれにしても皆さんに声をかけないと偏った意見になる。商工会議所に私の名前で案内が来るので私の責任かと思って出席すると、私でなくてもいいこともある。人選はなるべく広くやってほしい。

■委員 三学委員会は、去年山岡のレディースネットワークで山岡の三学の方と一緒にあって、鈴木隆一先生に来てもらって講演を聴いたり、岩村を散策したりしている。この間はレディースネットワークで、六本木ヒルズにある佐藤一斎のお墓参りに行って来た。勉強していこうとしている。岩村で6、7回の講演会がある。岩村の方とは差があって行きづらいが、できるだけ参加したいと思っている。

■委員長 行政評価制度の構築について。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 ここはずっと付き合っていただく事務局なので、今後も意見が言えると思うので説明だけにとどめる。

(2) 本年度の市民評価委員会について

(3) 評価事業の選定について

■委員長 資料2の説明を事務局からお願いしたい。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長 本日からスタートした委員会の最終的提言までのスケジュールが報告された。6ページ、本日から10月下旬の提言までのスケジュールについて確認してほしい。特に今回は、別紙の6つの主要施策に事業がある。去年は5つというのが必要に応じて7つまで取り上げた。今回も5つだが、どうしても必要なら、7事業ぐらいまで拡大し、さらに行政提案が5事業あるので12事業になる。8ページには、行政からはこのような8事業について評価を願いたいということで出されている。この中から5つ選定する。皆さんからは分厚い方の資料から、分野が偏らないよう選定していく。

今日この時間ではなかなかできないので、次回までに、あらかじめ今月いっぱいぐらいまでに、行政からの提案事業、皆さんが選定する事業について、意見をファクスなどで事務局に寄せていただいて、その中で多数を占めたものを拾い、バランスも考えながら選定したいがよいか。

では、分厚い方の事業選定はなるべく6つの施策の中から1つずつ選んでほしい。それを皆さんで相談して5つぐらいに絞り込むのが次の作業になる。市の提案事業と自分たちが選ぶ施策ごとの事業とを調整し、両方ともバランスよく事業を選定し評価いただきたい。

■委員 行政の提案事業で、アグリパーク恵那というのがある。アグリパーク恵那管理運営経費の346番と351番のふれあい広場。事業見込みでは346番の金額になっているが、どちらなのか。

■事務局 8ページ6のアグリパーク恵那管理運営経費、事業費の見込額6247千円は転記ミスで、487千円が正しい。

■委員長 繰り返す。8ページは行政から評価をしてほしい事業8項目、ここから5つ選定してほしい。それから600事業の中で主要施策が6本立てになっているのでその中から1事業ずつ選定していただく。それと最終的には行政の内容と合うところもあると思うが、それは次の選定で調整して最終的に決定する。事務局にファクスしてほしい。ファクス番号は今日の資料に書いてある。

■事務局 行政の提案は8項目ある。この中から5つ選び、また自分達も5つ選ぶのが大変なら、行政提案の8つの中から、事務局としてはこの5つをやっていたきたいという提案をさせていただく方法も考えているが、委員の意見を伺いたい。

■委員 委員で選択したらどうか。

■委員長 では次の作業ということで。各委員はそうしなくていいということだ。全体の選定の中で併せてやる。

資料3、4、5までやった。追加資料がある。オブザーバーの竹内さんから、昨年度の進め方の過程で、アドバイザーとして頭に置いていただきたいということについての資料だ。選定に当たって参考にしてほしい。去年も配ったのと同じだ。

それから、基本的に、評価の仕方の問題を考えていけないといけない。原則があるが、

評価した結果、事業内容がAで評価もAにならざるを得ないということになった。従って、その事業の重要度と、それがAだとして、それを評価した結果まだ70%だからBだという評価があっている。結果的にそういう方向に誘導されるような形が評価の仕方の中で提案されていたので、私も、事業の中身のAという度合いと評価をする場合の度合いは違うということのを頭に置いて進めたい。もう一点、選定事業のヒアリングを受けて、評価事業に当たるときには担当がいないので、小島部長が苦勞して報告された。評価の事業でも、選定した事業課の担当者も来ていただき議論したい。この2点だけは、今日初めの段階で確認させてほしい。それでいいか。

それではそう進める。

本日の日程は以上だ。

■事務局 最後に、追加資料で、チェックシートの記入の仕方というのがある。昨年までの復習として再度配布した。チェックシートの結果でどうしても公共性、公平性のウエイトが高くどうしてもAになるものが多いので、最後のA3の資料の各項目の評価の仕方のウエイトを一律にした。これを見てファクスでもいいので次回までにご意見をいただければそれをもとに検討する。

■委員長 評価チェックの仕方も問題提起をファクスしてほしい。

それ以外に意見、質問はないか。

■委員 昨年我々がした評価を取り入れてもらい新しく予算がついたりして、嬉しい思いがあるが、何より、620の中でたったこれだけ選び、しかもこれほど提言しないとイケないということがある。評価委員会がやったことが結果につながったのは市民としてよかったと思う。評価委員会を2チームでも3チームでも作って、市民がいろいろかかわりながら事業評価を行っていくことに、役所としてこれ以上やるのは抵抗があるか。

■事務局 一生懸命議論してもらっている。市民の目から見たあり方がよく分かり担当課も努力した。こういうことがほかの事業でも同時並行でできるといいと思うが、これをするために、委員にも時間がかかる。もっと多くの市民ということもあればいいが、それだけ労力をかけてくれる市民がいるかも不安だ。事務局も運営するのに手間と時間がかかるので、おっしゃるところはよく分かるが、だんだん増やせればいいと思う。事務局もぎりぎりの人数でやっている。何組か同時並行で運営するのは難しい。中津川市は数年前にすべての事業を短期間で、月に何度も委員が集まって、全部の事業の評価をやったことがあった。でも状況を聞くと荒っぽくなってしまってこんな細かい提言には至らなかったということだ。市も一度に提言を受けても一度に全てを改善できなくて、提言がややたなざらしになっていると聞いている。年間10、12は少ないとも思うが、一度にはできないので少しずつ増やしたい。

■委員 事業評価を行うことで、業務の中に緊張感は出てきているのか。それとも、対象

事業のみで、それほど影響がないのか。

■事務局 緊張感は非常に出てきている。まず、去年事業の説明会をして、担当がすべての事業を説明した。あの時点から、市民の前でうまく伝わるかということに緊張感を持っているし、今日も同じような思いで説明に来たと思う。うまく説明できる人と歯切れの悪い人とあった。職員も自分の仕事をこれほど細かく見てもらって、市民と議論する経験がないので、こういう経験は重要だと思う。

■委員長 ほかに。先ほど、特定健診の中で、課長が言われた、国保運営協議会に私と宮地さんがかかわっている。特定健診の集団健診料と特別健診料の課題があり、東濃5市の比較が出ていた。2つの意見がある。全体的に500円、500円にした場合の市の持ち出しは2,200万円。ただ、国保運営費の収支報告書で、昨年度はたまたまなのか医療費の不要額が1億4千万ある。それを充てて健診を高めて、予防医療をすることで医療給付を少なくしていくことが国保の料金の引き上げに至らないという、循環性の問題があるという。そこまで検討したということは、今回の市民評価委員会の中で、回数の問題と料金の平均化の問題を出して、ただ、個別健診で500円になると、開業医にたくさんいくと診療にうんぬんという話もあったが、それは医師会と話せばいいので、そういう課題も反映されていることを承知してほしい。

■委員 3つ意見がある。資料を見ていて慣れたということではないと思うが、事業概要も、去年は担当課が先に書いてあって見にくかったがそれを変えるだけで見やすくなった。ありがとうございました。事務事業成果表23年度がネットに上るのはいつになるか。

■事務局 今担当課に入力してもらっている。8月ぐらいになると思う。例年と同様になる予定。

■委員 企画課の横の資料コーナーをどうにかしてほしい。評価委員に限らず、いろいろな委員会があって、知っている人ばかりなのでいいのかもしれないが、毎回アンケートを出してほしいとか、こういう資料があるのかということに対応している職員も時間がもったいない。そこに行けば資料がそろっていて調べ物ができるという環境にしてほしい。

■事務局 行政資料室についてお答えする。その通りだ。どこの市役所も普通は玄関に集まっていてそこで見られる。統計や観光案内などすべてそろっているのが普通だ。本市は玄関が狭いので、今受付の反対の右側にパンフレットだけ少し置いて、その他を3階の企画課の横の狭いところに置いている。これについては本市の大きな課題だが、今スペースがない。新しい庁舎の1階に作るように計画している。

■委員 資料自体がない。まだ本棚が空いているのでそこに入れてくれればいい。

■事務局 了解した。

■委員長 ほかにないか。心して対応してほしい。ではこれで終わる。

#### 5 その他 次回開催予定日について

■事務局 次回の開催予定について。事務局としては7月上旬を予定している。都合の悪い日が分かっていたら伺う。7月第1週から2週でお願いしたい。資料整理の時間もあるので7月10日から13日の間でどうか。午後にしたい。6月27日ぐらいまでにファクスをいただきたい。

■副委員長 第1回恵那市市民評価委員会を終わる。ご苦労さまでした。

[ 閉 会 ]